



# 新興プラントック

## 第107期 報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

証券コード：6379



## 株主の皆様へ



代表取締役社長

吉川善治

Yoshiharu Yoshikawa

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたびの東日本大震災により被害を受けられた地域の皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

ここに第107期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

### Contents

株主の皆様へ	1
トピックス	2
業績ハイライト(連結)	5
連結財務諸表	9
単体財務諸表	11
事業のご紹介	12
会社概要	13
株式の状況	14

# トピックス

## 新興プランテックのメンテナンス事業戦略コンセプト

### One to One Maintenance

プラントライフサイクルの最適化を支援しております。

#### ■ One to One Maintenanceとは



One to One Maintenance (ワン・トゥ・ワン・メンテナンス) とは、お客様との関係、結びつきに重点を置き、お客様のニーズに最適なメンテナンスサービスを提供するという、私たちのサービスにおけるコンセプトを表した言葉です。この言葉には社員一人ひとりがお客様と向き合い、末永い信頼関係を築いていきたいという願いがこめられています。

マークでは、そのような姿勢、願いを、お客様と私たちを表す人の図形、それらを結ぶ無限大の帯で表現。信頼関係に基づく多彩なサービスの提供により、お客様がさらに発展され、それを通じて私たち自身も発展していきたいという理想を表しています。

日常保全工事や定期修理工事などのメンテナンスから、プラントの改造・改修工事まで——私たちは、お客様との対話を重ねながら、“オーダーメイド”のメンテナンス計画をご提案。プラントライフサイクルの最適化を支援し、お客様の高い満足を実現します。

#### 提供価値

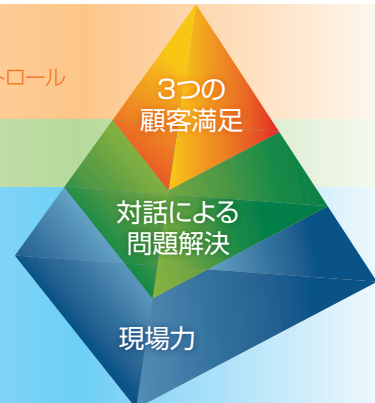
スピード&セーフティ・パフォーマンス・コストコントロール

#### 基本姿勢

お客様との対話・現場と本社の連携

#### 強み

監督力・技術力・組織力

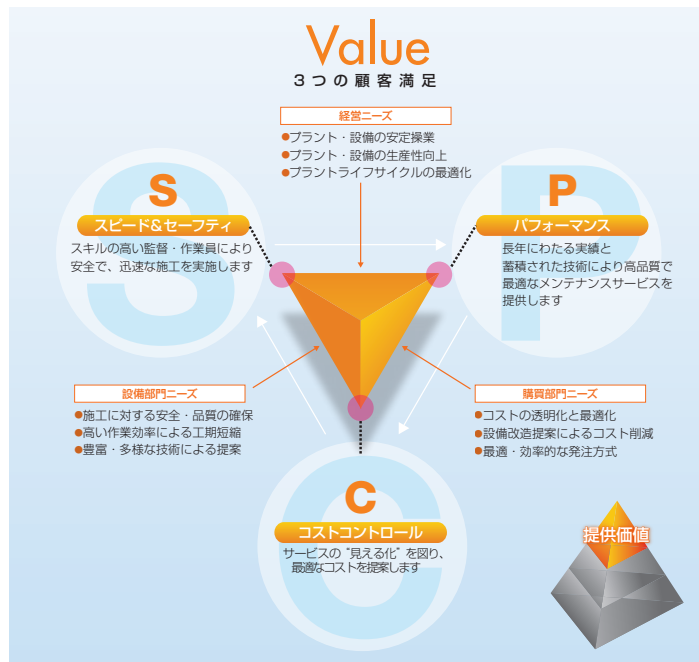


# トピックス

## Value 提供価値

～迅速に、安全に、最大効果を最適コストで～

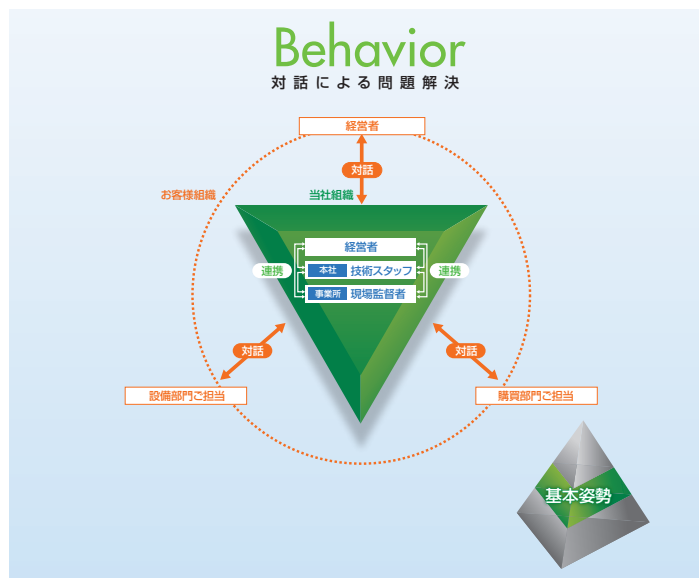
経営環境の変化、プラントの状態、将来の生産計画などにより、プラントメンテナンスに関する課題は一つずつ異なります。また、メンテナンスに携わるお客様関係者のニーズもさまざまです。私たちは、お客様に提供すべき価値を「3つの顧客満足」と定め、オーダーメイドのメンテナンスサービスを提供し、その実現を追求しています。



## Behavior 基本姿勢

～お客様との“対話”に基づく、きめこまかな提案を实践～

プラントメンテナンス上の課題に最適なご提案をするために、私たちはお客様との“対話”を重視しています。当社の現場監督者が、設備部門、購買部門のご担当者様との密な対話を通じて、メンテナンス上の課題をお客様とすみやかに共有するとともに、本社の技術スタッフと連携し、実情に沿ったきめこまかな提案でお客様のプラントメンテナンスを支援します。



## Competency 強み

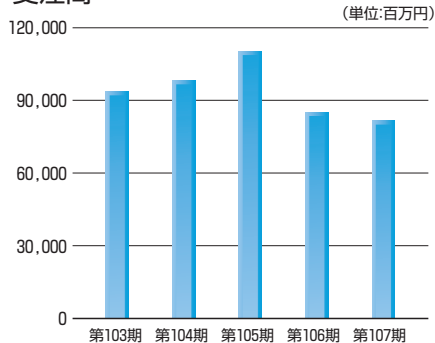
～すべての現場で「技術力」「監督力」「組織力」を発揮～



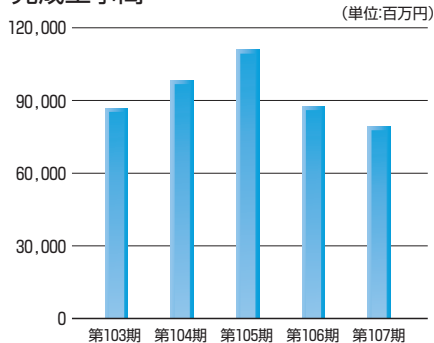
プラントメンテナンスには、プラントの実情に的確に対応しうる知見と体制が求められます。私たちは、現場で長年培った専門技術とエンジニアリング技術を融合し、メンテナンスから改修・改造まで幅広く対応できる「技術力」を有しています。また、安全・品質・工程・コストを統合管理する「監督力」、大規模な工事にもお応えできる「組織力」で、確かなサービスを提供します。

# 業績ハイライト (連結)

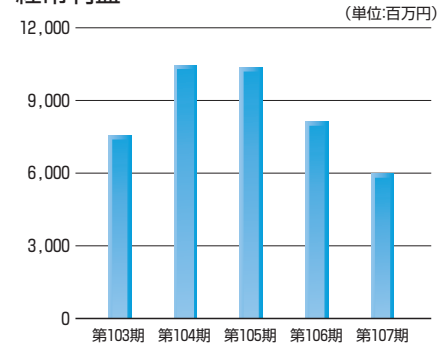
## 受注高



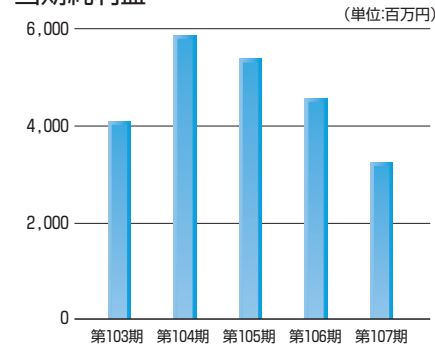
## 完成工事高



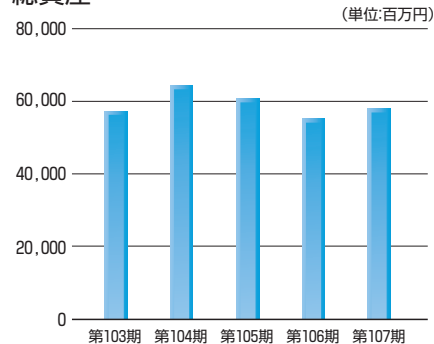
## 経常利益



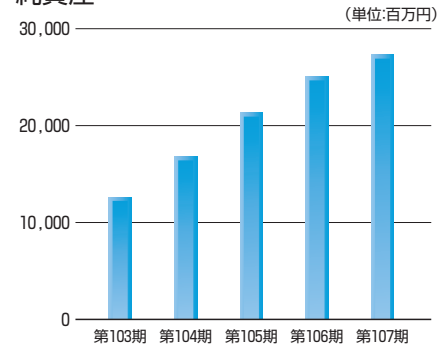
## 当期純利益



## 総資産



## 純資産



(単位:百万円)

	第103期 (平成19年3月期)	第104期 (平成20年3月期)	第105期 (平成21年3月期)	第106期 (平成22年3月期)	第107期 (平成23年3月期)
受注高	93,618	98,073	110,482	85,139	81,593
完成工事高	86,826	98,925	110,923	87,536	79,269
経常利益	7,532	10,433	10,350	8,113	5,965
当期純利益	4,116	5,876	5,380	4,566	3,246
総資産	57,314	64,363	60,759	55,195	57,983
純資産	12,632	16,816	21,323	25,066	27,302

## 第107期（平成23年3月期）の事業環境

新興国の経済成長に支えられた輸出の拡大等により企業収益や個人消費に一部回復の兆しが見られました。しかしながら、米国経済の減速懸念による円高の進行や長引く厳しい雇用環境など足踏み状態もあり、回復の足取りは非常に緩やかに推移いたしました。そして平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、被災地に甚大な被害をもたらすとともに、工場の操業停止、電力不足、急激な円高の進行などわが国の経済活動に幅広く影響を及ぼし、景気の先行きは不透明感が一層強いものとなりました。

当社グループを取り巻く事業環境については、国内においては、主要顧客であります石油・石油化学業界では、昨年夏の猛暑による石油製品の需要増や石油化学製品の緩やかな内需の回復と新興国向けの輸出の増加により、収益は回復傾向にありました。しかしながら、国内の人口減少、少子高齢化、環境意識の高まり等による石油製品需要の長期的な減少傾向の中、石油業界の元売り各社は「エネルギー供給構造高度化法」に基づく精製能力の削減計画を公表するなど、需要に見合う最適な生産体制の構築に向けて取り組み、その流れの中でメンテナンス費用や設備投資の抑制を継続的に実施しました。また、海外においては、中国やアジアの新興国の順調な経済成長を背景に、一般工業の日系企業の設備投資は活発であり、投資案件に対する引合は旺盛に推移いたしました。

## 第107期（平成23年3月期）の連結業績の概要

当社グループは、平成22年度を初年度として策定した第4次中期計画に沿って、付加価値の高いメンテナンスサービスを提供してまいりましたが、石油業界における精製能力の削減に向けた過剰設備の解消の流れの中で、メンテナンス費用や設備投資の抑制の影響により、また、「海外事業の拡充」を図るため、中期計画初年度から海外での旺盛な引合に積極的に対応いたしましたものの、厳しい受注環境下での対応を強いられており、当初想定した数値目標までにはいたらず、連結ベースの業績としては、受注高（エンジニアリング業）は前期比4.2%減の815億9千3百万円となり、完成工事高は前期比9.4%減の792億6千9百万円となりました。

損益面におきましては、完成工事高の減少および価格競争の激化により、経常利益は59億6千5百万円（前期比26.5%減）、当期純利益は32億4千6百万円（前期比28.9%減）となりました。

なお、当期の業績における東日本大震災の影響は、軽微なものとなっております。

## 完成工事高の内訳

完成工事高の内訳は、エンジニアリング業といたしましては、石油・石油化学関係で633億9千8百万円、一般化学・薬品・食品・電力等の一般工業関係で157億1百万円となりました。工事種類別の完成工事高は、それぞれ対前期比で、日常保全工事につきましては、顧客のメンテナンス費用見直しや過剰設備の解消により減少、定期修理工事につきましては、前期が端境期であったこともあり増加、改造改修工事につきましては工事案件の減少により、新規設備工事につきましても大型案件の完工がなく、ともに大幅に減少いたしました。なお、その他の事業（エンジニアリング業以外）では、1億6千9百万円となっております。

### 事業セグメント別の完成工事高内訳

(単位：百万円)

完成工事高	第106期 (平成22年3月期)	第107期 (平成23年3月期)	前期比 (%)
エンジニアリング業	87,346	79,100	△ 9.4
石油・石油化学関係	71,845	63,398	△ 11.8
一般工業関係	15,500	15,701	1.3
その他の事業	190	169	△ 10.8
合計	87,536	79,269	△ 9.4

### 工事種類別の完成工事高内訳（その他の事業分を除く）

(単位：百万円)

完成工事高	第106期 (平成22年3月期)	第107期 (平成22年3月期)	前期比 (%)
エンジニアリング業	87,346	79,100	△ 9.4
日常保全工事	20,959	20,116	△ 4.0
定期修理工事	32,432	35,050	8.1
改造・改修工事	22,659	17,504	△ 22.7
新規設備工事	11,295	6,428	△ 43.1

## 第108期（平成24年3月期）の事業環境および業績見通し

世界経済は中東情勢の混乱による原油価格の高騰や新興国のインフレ懸念など不透明な要素はあるものの、新興国の高い経済成長が引き続き世界経済を牽引し、緩やかに伸びていくものと思われまます。

一方、国内経済は、厳しい雇用情勢や所得環境による個人消費の低迷、円高やデフレの進行等の不安材料に加え、3月11日に発生した東日本大震災により、当面の国内経済に様々な影響を及ぼすものと想定され、先行きが見通せない状況となっております。

当社グループの主要顧客であります石油・石油化学業界につきましては、国内の石油製品の需要減少や国際的な競争により、事業環境が引き続き厳しい状況にあります。加えて、震災の発生により東北・関東地方におけるプラントが被災し、国内石油製品の供給体制に深刻な影響を与える事態となり、プラントの早急な復旧と安定供給体制の回復・構築が喫緊の課題となっております。

このような中、当社グループといたしましては、第4次中期計画で中長期の経営ビジョンとして掲げた全ての設備に対応できるエンジニアリング能力のある「総合プラントメンテナンス企業」の実現に向けて邁進してまいります。また、東日本大震災の影響による復旧活動の動向や当社を取り巻く事業環境の変化等に的確に対応しつつ、事業および収益基盤の維持と一層の強化を図り、事業ポートフォリオを変革させ、受注と収益の確保に引き続き注力してまいります。

## 第108期（平成24年3月期）の業績見通し（連結）

（単位：百万円）

	中間期			通 期		
	H22. 9実績	H23. 9予想	増減率 (%)	H23. 3実績	H24. 3予想	増減率 (%)
受 注 高	41,242	48,000	16.4	81,593	96,000	17.7
完 成 工 事 高	41,821	45,000	7.6	79,269	90,000	13.5
経 常 利 益	3,507	3,450	△1.6	5,965	6,800	14.0
当 期 純 利 益	1,954	1,850	△5.4	3,246	3,650	12.4

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>		
流 動 資 産	40,144	38,382
現金及び預金	12,931	9,378
受取手形・完成工事未収入金	17,747	19,095
有 価 証 券	2,999	2,199
未成工事支出金	5,719	6,588
繰延税金資産	500	579
そ の 他	245	542
貸倒引当金	△ 1	△ 2
固 定 資 産	17,839	16,812
有形固定資産	11,151	11,237
無形固定資産	308	350
投資その他の資産	6,379	5,224
<b>資 産 合 計</b>	<b>57,983</b>	<b>55,195</b>

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)
<b>負 債 の 部</b>		
流 動 負 債	29,571	29,119
固 定 負 債	1,110	1,009
<b>負 債 合 計</b>	<b>30,681</b>	<b>30,128</b>
<b>純 資 産 の 部</b>		
株 主 資 本	26,996	24,906
資 本 金	2,754	2,754
資 本 剰 余 金	1,688	1,688
利 益 剰 余 金	22,589	20,499
自 己 株 式	△ 37	△ 36
その他の包括利益累計額	203	64
その他有価証券評価差額金	204	64
為替換算調整勘定	△ 1	0
少数株主持分	102	95
<b>純 資 産 合 計</b>	<b>27,302</b>	<b>25,066</b>
<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>57,983</b>	<b>55,195</b>

**連結損益計算書**

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度		前連結会計年度	
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
完成工事高	79,269	87,536		
完成工事原価	70,125	76,185		
完成工事総利益	9,144	11,351		
販売費及び一般管理費	3,214	3,364		
営業利益	5,930	7,986		
営業外収益	298	316		
営業外費用	263	189		
経常利益	5,965	8,113		
特別利益	27	7		
特別損失	24	121		
税金等調整前当期純利益	5,968	8,000		
法人税、住民税及び事業税	2,626	2,981		
法人税等調整額	87	427		
少数株主損益調整前当期純利益	3,254	—		
少数株主利益	8	25		
当期純利益	3,246	4,566		

**連結キャッシュ・フロー計算書**

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度		前連結会計年度	
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,227	3,767		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,649	△ 1,145		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,179	△ 1,634		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 44	△ 15		
現金及び現金同等物の増加額	4,353	971		
現金及び現金同等物期首残高	11,577	10,606		
現金及び現金同等物期末残高	15,931	11,577		

**連結株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)**

(単位：百万円)

項 目	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持 分	純 資 産 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
平成22年3月31日残高	2,754	1,688	20,499	△ 36	24,906	64	0	64	95	25,066
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 1,155		△ 1,155			—		△ 1,155
当期純利益			3,246		3,246			—		3,246
自己株式の取得				△ 0	△ 0			—		△ 0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額 (純額)				△ 0	—	140	△ 1	139	6	146
連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,090	△ 0	2,090	140	△ 1	139	6	2,236
平成23年3月31日残高	2,754	1,688	22,589	△ 37	26,996	204	△ 1	203	102	27,302

# 単体財務諸表

## 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	(平成23年3月31日現在)	(平成22年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	39,050	37,515
固定資産	17,828	16,693
有形固定資産	10,748	10,843
無形固定資産	305	347
投資その他の資産	6,774	5,502
<b>資産合計</b>	<b>56,878</b>	<b>54,208</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	29,294	28,891
固定負債	974	851
<b>負債合計</b>	<b>30,269</b>	<b>29,743</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	26,408	24,403
資本金	2,754	2,754
資本剰余金	1,688	1,688
利益剰余金	22,002	19,996
自己株式	△ 37	△ 36
評価・換算差額等	200	61
その他有価証券評価差額金	200	61
<b>純資産合計</b>	<b>26,609</b>	<b>24,464</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>56,878</b>	<b>54,208</b>

## 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
完成工事高	77,060	85,345
完成工事原価	68,402	74,557
完成工事総利益	8,657	10,788
販売費及び一般管理費	2,903	3,139
営業利益	5,754	7,649
営業外収益	325	337
営業外費用	262	207
経常利益	5,817	7,779
特別利益	0	0
特別損失	50	138
税引前当期純利益	5,767	7,641
法人税、住民税及び事業税	2,537	2,819
法人税等調整額	68	437
当期純利益	3,161	4,384

## 株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

項 目	株主資本										評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		利益剰余金合計						
平成22年3月31日残高	2,754	1,372	316	1,688	408	212	500	18,876	19,996	△ 36	24,403	61	61	24,464
事業年度中の変動額														
剰余金の配当				—	—			△ 1,155	△ 1,155		△ 1,155		—	△ 1,155
当期純利益				—	—			3,161	3,161		3,161		—	3,161
買換資産圧縮積立金の取崩				—	—	△ 7		7	—		—		—	—
自己株式の取得				—	—			—	—	△ 0	△ 0		—	△ 0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)				—	—			—	—		—	138	138	138
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	△ 7	—	2,013	2,005	△ 0	2,005	138	138	2,144
平成23年3月31日残高	2,754	1,372	316	1,688	408	204	500	20,889	22,002	△ 37	26,408	200	200	26,609

## 事業のご紹介

当社は石油、石油化学、一般化学、医薬品、食品などのお客様のプラント（製品製造装置）のメンテナンスから建設工事に至る幅広い業務を提供しております。

### ■ プラントメンテナンス

当社はプラントメンテナンスのエキスパートとして、長年の経験により培った技術と高度な技能により、専門性の高いメンテナンスサービスを提供し、プラントの安全で安定的な操業に貢献できるよう日々努力を重ねております。また、お客様のプラントメンテナンスに関する多様なニーズにお応えするために「One to One Maintenance」をテーマとして、それぞれのお客様とのコミュニケーションを通じ、プラントメンテナンスに関する課題や問題点に対する改善策や解決策を提案しております。

メンテナンスにおいては、お客様のプラントの安全で安定的な操業を支えることを目的として、次のような工事を行っております。

- プラント稼動に伴い、発生する配管の補修、フィルターの清掃、回転機械の点検などの工事
- 高圧ガス保安法などの法令で定められたものを中心に定期的にプラントを停止させ、点検、補修、改造などを行う工事
- プラントの能力増強や生産性向上のための改造や老朽化による設備更新などを目的に行われる工事



### ■ プラント建設

お客様は新製品の製造や生産能力の増強などを目的として、プラントを新たに建設される場合があります。当社では中小規模のプラント建設を主体として、各種プラントの企画から基本設計、詳細設計、資機材調達、現地工事、試運転に至る機能的なプロジェクトマネジメントにより、効率的で合理的なプラント建設を実現しております。



# 会社概要

## ■ 概要 (平成23年3月31日現在)

- 商号 新興プランテック株式会社  
Shinko Plantech Co., Ltd.
- 本社所在地 〒235-0017 横浜市磯子区新磯子町27番地5
- 設立 1938年(昭和13年)7月20日
- 資本金 2,754,473,003円
- 上場取引所 東京証券取引所 市場第1部
- 従業員数 連結 1,260名 単体 997名

## ■ ネットワーク (平成23年6月29日現在)

- 工場 磯子(横浜市)
- 事業所 室蘭(室蘭市)、仙台(仙台市)、新潟(新潟市)、鹿島(神栖市)、千葉(市原市)、川崎(川崎市)、川崎TG(川崎市)、横浜(横浜市)、根岸(横浜市)、東海(静岡市)、大阪(高石市)、和歌山(有田市)、水島(倉敷市)、岩国(岩国市)、徳山(周南市)
- 子会社 新興総合サービス株式会社(横浜市)  
新興動機械サービス株式会社(横浜市)  
池田機工株式会社(西条市)  
東海工機株式会社(市原市)  
エヌ・エス・エンジニアリング株式会社(横浜市)  
PT.SHINKO PLANTECH(インドネシア)  
無錫興高工程技术有限公司(中国)  
SHINKO PLANTECH (THAILAND) CO.,LTD(タイ)

## ■ 役員 (平成23年6月29日現在)

- |                     |      |                    |
|---------------------|------|--------------------|
| ● 取締役               |      | ● 監査役              |
| 代表取締役社長<br>執行役員社長   | 吉川善治 | 常勤監査役 大島寿之         |
| 代表取締役副社長<br>執行役員副社長 | 清水邦雄 | 常勤監査役 井手上信博        |
| 代表取締役<br>専務執行役員     | 中田正人 | 監査役 津村和孝           |
| 取締役<br>専務執行役員       | 曾田治男 | 監査役 山田清貴           |
| 取締役<br>常務執行役員       | 小宮良  | ● 執行役員 (取締役兼務者を除く) |
| 取締役<br>常務執行役員       | 寺田義広 | 常務執行役員 大橋良司        |
| 取締役<br>常務執行役員       | 大友喜治 | 常務執行役員 中沢信雄        |
| 取締役<br>常務執行役員       | 鳴瀧宣夫 | 常務執行役員 宮崎周一郎       |
| 取締役<br>常務執行役員       | 池田俊明 | 常務執行役員 鰐淵彰         |
|                     |      | 執行役員 佐々木勉          |
|                     |      | 執行役員 中野功           |
|                     |      | 執行役員 久保修二          |
|                     |      | 執行役員 杉井士郎          |
|                     |      | 執行役員 山本光男          |
|                     |      | 執行役員 山崎一男          |
|                     |      | 執行役員 森清幸           |

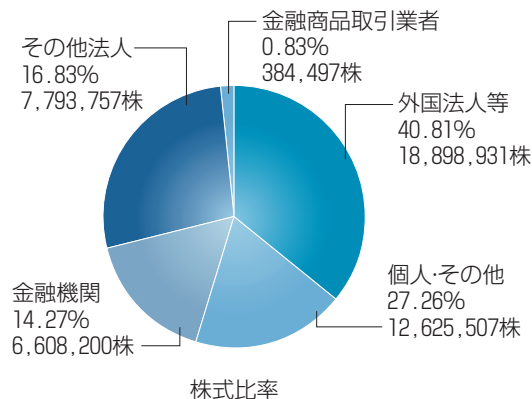
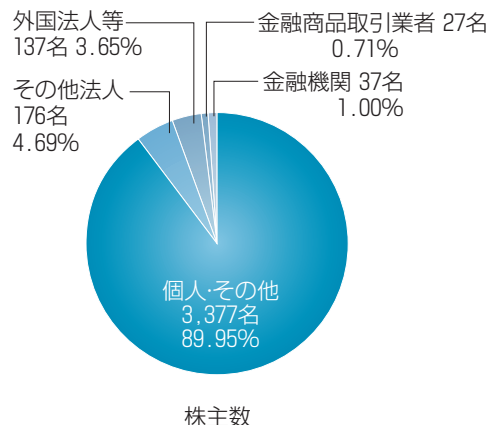
# 株式の状況 (平成23年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 160,000,000株
- 発行済株式総数 46,310,892株
- 株主数 3,754名 (前期末比 833名減)
- 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
JXホールディングス株式会社	6,100	13.19
ビービーエイチマシュースアジアディビデンドファンド	2,555	5.53
株式会社NIPPO	1,500	3.24
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	1,484	3.21
ビービーエイチオツペンハイマークエスト インターナショナルバリューフアード	1,481	3.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,299	2.81
ジェービーモルガンチェースバンク380055	1,112	2.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	965	2.09
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイ ロンドンエスエルオムニバスアカウント	925	2.00
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントブリテイツシユクライアント	877	1.90

(注) 出資比率は、自己株式(80,382株)を控除して計算しております。

## ●所有株数別株式分布状況



## ●株主メモ

決 算 期  
定 時 株 主 総 会  
基 準 日

3月31日

6月中

定時株主総会については3月31日といたします。  
その必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

配 当 金 受 領  
株 主 確 定 日  
株 主 名 簿 管 理 人

3月31日および中間配当を実施するときは9月30日

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(電話問い合わせ)  
および郵便物送付先)

〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)

公 告 の 方 法

電子公告といたします。但し、電子公告による公告を  
することができない場合は、日本経済新聞に掲載する  
方法といたします。

単 元 株 式 数

100株



当社の最新情報はこちらから

<http://www.s-plantech.co.jp/>